

家庭内 DIG (ディグ) 講座 ～地震がきても、わが家で暮す方法～

日時:令和5年7月9日(日曜日) 午前9:30から

場所:大岡地区センター 2階会議室

参加者:約60名(親子で参加3組)

主催:大岡連合自治会、大岡コミュニティ推進委員会・消防防災部・女性部

講師:沼津市危機管理課 山口さん・及川さん



沼津市危機管理課
山口さん・及川さん

はじめに、杉山連合副会長から挨拶があり、その後、講師の山口さんと及川さんの指導のもと、DIGの講習会が始まりました。

参加した小学生からは、「難しい…」との声もありましたが、皆さんは一生懸命に取り組んでいました。

「DIG」とは、大きな地図を囲みながら、参加者全員で災害時の対応策などを考える訓練のことで、Disaster Imagination Game の頭文字をとって『DIG(ディグ)』と名付けられました。英語の動詞“dig”には「掘り起こす、探求する、理解する」といった意味があります。『DIG』という名称には「防災意識を掘り起こそう」「地域を探求しよう」「災害を理解しよう」といった、この訓練のねらいが込められています。

- ① 平面図を描く
 - ② 危険な場所を探す
 - ③ 元栓等の位置を確認(電気のブレーカー、ガスの元栓やマイコンメーターの場所を確認しよう)。過去の災害では停電回復の通電火災が多数発生しています。災害発生後、避難する場合は必ずブレーカーを落としてから避難しましょう。
 - ④ 震災後の生活を考える…
- ★どの部屋で生活するか? ★ 飲料、食料水はどうする? ★ トイレの問題は? ★ 寒さ対策は?

災害時の備蓄は『食べなれた食品も活用しよう!』

大規模地震直後は、物流がストップすることが予想されるため、まず家庭で、1週間程度は自活するという備えが必要です。とはいえ、非常食を7日分備蓄するのは大変ですよね。体調維持のためにも食べ慣れた食品の活用も考えてみませんか。普段からの買い置きやローリング(回転備蓄)を習慣づけて、大規模な災害に備えましょう。『携帯トイレ』も備蓄しよう。災害時に備えた食料、食料水の備蓄は少しずつ浸透してきましたが、「携帯トイレ」の備蓄忘れずに、生きる上で、食べる事、飲む事と「排せつする事」はセットです。地震で水道・下水道が破損した場合トイレは使えません。あなた自身と家族を守るため、「簡易トイレ」を備蓄しましょう。

地震から命を守るために…家具の固定費用が無料になります。

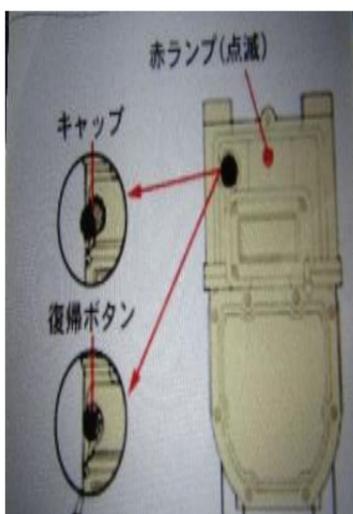
『対象世帯』

沼津市内に住所があり、次のいずれかに該当する世帯

- ① 満65歳以上の高齢者(同一世帯に満18未満の者がいる場合も可)
- ② 次のア～カの人を含む世帯
ア、身体障害手帳の交付を受けている人
イ、療育手帳の交付を受けている人
ウ、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人
エ、障害厚生年金・障害基礎年金の受給権がある人
オ、要介護・要支援の認定を受けている人
カ、特定医療受給者証又は特定疾患医療受給者証の交付を受けている
- ③ 母子家庭世帯、母親及び満18歳未満の子のみの世帯(同一世帯に65歳以上の者がいる場合も可)

※ なお、賃貸住宅では、家主などの了解が必要となります。

自治会では、危険箇所について考えを見直し、住民は防災意識を高め、防災訓練には積極的に参加しましょう。



ガスマイコンメーター



地震がきてもわが家で暮らす方法



簡易トイレはどれだけの数を備えたらいいの?



家の間取り書き・危険場所の検討風景



簡易トイレの作り方